

政策提言

自然災害へのそなえは、その場所の自然のとくちょう、その場所の町のとくちょう、その場所でくらす人々のとくちょう、その場所のくらし方のとくちょうなどによって、さまざまです。

自然災害へのそなえは、同じ町にくらす人や、同じ学校の同じクラスの生徒でも、異なることがあり、同じ家族でも、その時に、どこにいるのかによっても異なることがあります。

このことを、防災マップをつくる授業を通して気付きました。

そのため、自然災害に対しては、国や地域のくくりに関係なく、誰かにまかせたり、誰かにたよるだけではなく、まずは自分で自分の命を守ることができるようになることが大切だと思います。そして、それができてこそ、より高いレベルで、おたがいに助けあうことも、できるようになるのではないのでしょうか。

それは、僕たちのような子供でも例外ではありません。

これからは、学校の授業の中でも、もっと、減災のことについて学ぶことができるプログラムを取り入れていく必要があると思います。子供たちが学ぶことは、社会の基本となっていくからです。

では、その授業はどのような内容にすべきでしょうか。その授業で使う教科書とはどのようなものにすべきでしょうか。

画一的（かくいつてき）な知識を覚えるだけの授業では、自然災害へのそなえには不十分です。自分たちで、自分たちがくらす場所のことをよく研究し、どのような状況の時に、どのように対応すれば良いのかを考え、じっさいに使えるようにアウトプットしたり、そのアウトプットを共有したりできる授業が必要です。

また、クラスの中にとじただけの授業では、さまざまな状況を現実的に理解することがむずかしいため、色々な年齢の人たち、色々な立場の人たち、色々な専門家の人たちなどと、いっしょに考えることができる授業が必要です。

減災の教科書は、もらうものではなく、つくるものにしなければいけないと思います。また、つねにより良いものにレベルアップさせていかなければいけないと思います。

そして、僕たちからの提言です。

僕たち子供に、その教科書をつくらせて下さい。そして、その仕事そのものを授業にして下さい。
与えられるだけの教科書や授業では、僕たちは考えたり、感じたりする大人になれません。

大人の人たちには、僕たちが色々な人とつながり、研究し、考え、減災方法のアウトプットを出し、
そのアウトプットを色々な人に発信し共有できる、
そんな環境づくりを手伝って頂きたいと思います。

その教科書と、教科書をつくる授業は、
国境や地域や、大人がつくった色々な組織のわく組みをこえて、ひとつのものとしします。
つまり、全世界共通の教科書であり、授業のプログラムです。

でも、その教科書を見る子供や、その授業を受ける子供によって、
それぞれにとって、本当に必要な学習をすることができ、
自分にとってもっとも適切な問題解決の方法を見出せるものにします。
つまり、ひとりひとりによりそった教科書であり、授業のプログラムです。

先ずは、防災マップづくりから始めては、どうでしょうか。

自然災害は、大人が作ったルールにしばられることなく、
僕たちの暮らしに深くかかわっています。。

だからこそ、僕たちは、世界中の子供たちとつながりあって、
世界共通の教育プログラムをつくりたいと考えています。
そのチャンスを、次の世代であり、未来そのものである僕たちに与えて下さい。